

氏名	所	剣
授与した学位	博	士
専攻分野の名称	医	学
学位授与番号	博乙第	2878号
学位授与の日付	平成7年	6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)	
学位論文題目	Suppression of Hepatic Natural Killer Activity by Liver Metastasis of Cancer and Restoration of Killer Activity by Oral Administration of a Basidiomycetes-Derived Polysaccharide, PSK (癌の肝転移による肝NK活性の低下と Basidiomycetes 由来 多糖体PSKの経口投与による肝NK活性の回復)	
論文審査委員	教授 辻 孝夫	教授 中山 睿一 教授 清水 信義

学位論文内容の要旨

PSK (クレスチン) は抗腫瘍活性と免疫調節作用を有する蛋白質結合多糖体である。本研究ではKDH肝癌の肝転移を有するWKAHラットに対しPSKを1日500mg/kg、連日3週間投与し、肝非実質細胞(NPLC)とその亜分画(Fr1-5)のNK活性を検討した。NPLCとLGLを多数含むFr2、3のNK活性はPSKの投与により著明に増強された。さらに経口PSKの効果をColon 26大腸癌により肝転移を生じたCDF₁マウスを用いて検討した。担癌マウスの生存日数はPSKの投与により延長し、肝転移病巣数、肝重量はともに減少した。これらの結果はPSKが肝NK活性の増強を通じて肝転移を抑制することを示している。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査結果の要旨

本研究はPSK (クレスチン) の抗腫瘍活性と免疫調節作用を調べる目的で、KDH肝癌を用いてWKAHラットに肝転移を作成し、PSK 1日500mg/kg経口投与による肝非実質細胞(NPLC)とその亜分画のNK活性を研究したもので、投与により肝転移例(実験群)のNPLCとLGLを含む亜分画Fr2,3のNK活性が増強しているという興味ある成績を得ている。さらにColon26大腸癌注入実験による肝転移モデルでも、PSK投与により生存日数の延長をみたとの成績を明らかにしている。

よって、本研究者は博士(医学)の資格があると認める。